

各位

上場会社名 株式会社 ホテル、ニューグランド
 代表者 代表取締役会長 兼 社長 原 範行
 (コード番号 9720)
 問合せ先責任者 取締役経理部長 岸 晴記
 (TEL 045-681-1841)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成23年4月7日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成23年11月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成22年12月1日～平成23年5月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	—	—	—	—	—
今回修正予想(B)	2,234	△131	△131	△89	△15.41
増減額(B-A)	—	—	—	—	—
増減率(%)	—	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年11月期第2四半期)	2,668	△40	△43	△32	△5.61

平成23年11月期通期個別業績予想数値の修正(平成22年12月1日～平成23年11月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	—	—	—	—	—
今回修正予想(B)	4,330	△300	△300	△200	△34.42
増減額(B-A)	—	—	—	—	—
増減率(%)	—	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成22年11月期)	5,258	△82	△85	△63	△10.98

修正の理由

2011年3月11日に発生した東日本大震災は当社の業績に大きな影響を及ぼしました。幸いにも、お客様、従業員に人的被害や建物について大きな被害はありませんでした。売上は、震災月の3月は前期比で1億94百万円(44%)減と大きく落ち込みましたが、その後4月は前期比で94百万円(24%)減、5月は前期比で75百万円(15%)減と徐々に回復してまいりました。

この結果、第2四半期の売上は22億34百万円(前期比87.3%)となる見込みであります。主な部門別の売上は、宿泊部門4億35百万円(前期比79.1%)、レストラン部門5億90百万円(前期比81.1%)、宴会部門9億83百万円(前期比85.4%)となる見込みであります。

費用面については、全社を挙げての経費節減の効果(主に人件費)が5月より表れ始め、販売費及び一般管理費は前期比1億92百万円(10.6%)減少し、16億15百万円となる見込みであります。

この結果、営業損益及び経常損益は1億31百万円の営業損失及び経常損失となる見込みであります。また、建物等の部分的補修費用16百万円を特別損失に計上し、第2四半期累計期間の四半期純損益は89百万円の純損失となる見込みであります。

通期につきましては、震災直後の予測では、通期売上は39億20百万円で前期比13億40百万円(25.4%)減、と今まで経験した事のない大きな売上の減少が見込まれ、また経常損益面でも5億円弱の損失が見込まれました。このため当社では東日本大震災の影響を企業存亡の危機と認識し、3月に直ちに「経営合理化委員会」を設置し、営業費用(営業原価、販売費及び一般管理費)の全ての項目について経費節減策の策定に着手いたしました。経費節減の主な内容は、役員、従業員、配膳人の人件費の削減や、仕入費用の削減、外注業務の一部内製化による業務委託費用の削減などです。

そして震災後の時間の経過とともに、売上の見込みも徐々に改善の兆しが見え始め、通期の売上高は当初の予測より4億円強改善し、43億30百万円で前期比9億30百万円(17.7%)減を見込んでおります。部門別の売上では第3四半期以降は、レストラン部門や宴会部門の婚礼については、ほぼ前年の90%弱の水準近くまで回復が見込まれますが、宿泊部門と宴会部門の一般宴会については、未だ前年の70%前後の水準に留まり回復は厳しい状況にあります。

一方、経費面においては、上記の経費節減策の実施により、営業原価で32百万円、販売費及び一般管理費で2億20百万円、合計で2億50百万円強の経費節減が見込まれることとなりました。これにより、販売費及び一般管理費は売上減少による変動費を含めると、前期比4億円を上回る減少となると予測しております。

この結果、営業損益及び経常損益は当初見込みの5億円の損失から2億円改善した3億円の営業損失及び経常損失、また当期純損益は2億円の純損失を見込んでおります。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上